

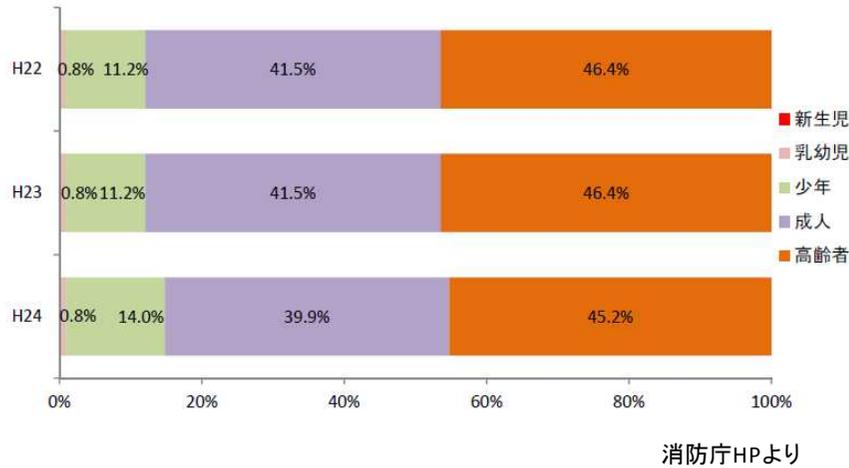
熱中症予防強化月間設定の背景・趣旨

- 熱中症は、スポーツ時や労働時だけでなく、日常生活時など多様な生活環境下で若年層から高齢者まで幅広く発生し、屋内や夜間でも発生。
- 熱中症は、一人一人が予防法や応急処置等の正しい知識を持つことで被害を減らすことが可能。
- しかし、熱中症による7月から9月における救急搬送者数は、平成22年に5万人を超えて以来、平成23年以降は4万人前後で推移。

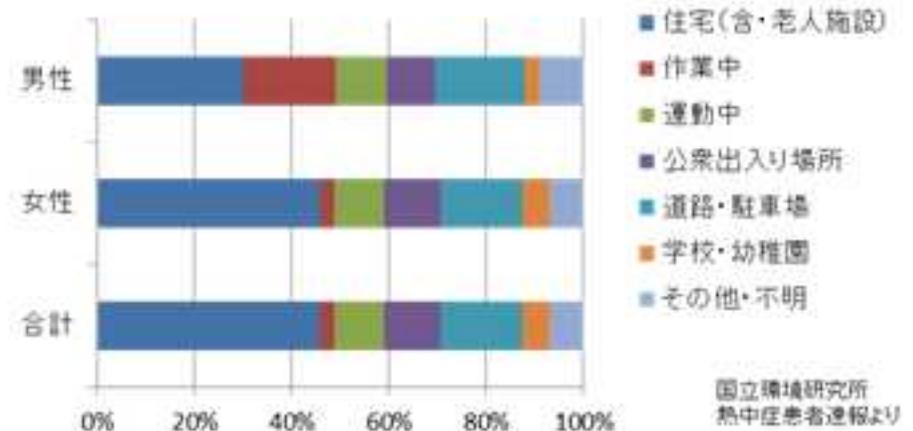


国民一人一人に対して熱中症についての正しい知識を周知することが必要であり、より一層の周知の効果上げる一つの方法として、「熱中症予防強化月間」を設け、国民の関心を得やすい形で、多くの関係者が集中的に周知等を行っていくこととした。

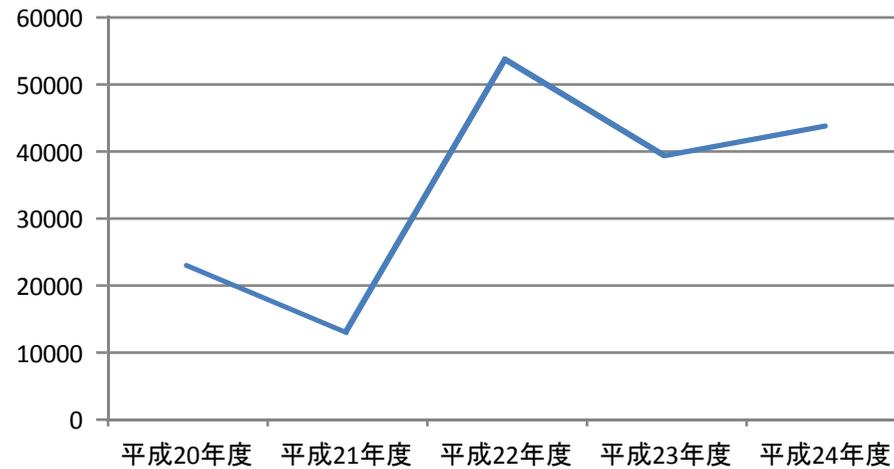
7月から9月における熱中症による救急搬送者数の年齢区分別割合



熱中症発生場所別患者数(2012年)



7月から9月における熱中症による救急搬送者数の経年変化



東京都		
	全患者数	夜間の患者数
小児	1500	127
成人	1096	98
高齢者	2080	188
総計	4679	413

注) 夜間は21時~6時

夜間の熱中症患者数(東京都、2010年)

提供：国立環境研究所 小野雅司氏

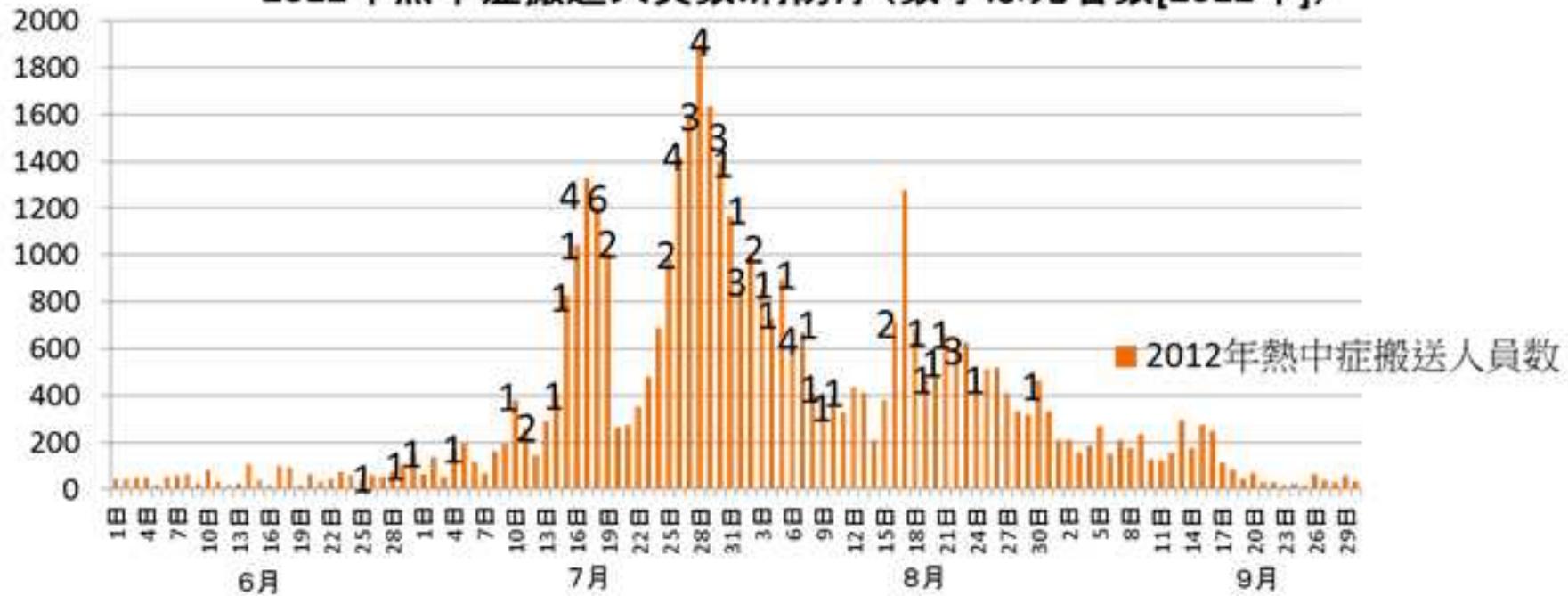
熱中症予防強化月間の時期

- 熱中症は夏期を中心に幅広い時期に発生するものの、特に7月～8月に集中。
- このうち、梅雨明けの蒸し暑く、急に暑くなる時期には、体が暑さに慣れていないため、熱中症になりやすく、例年、7月には、熱中症による救急搬送者数や死亡者数が急増。



熱中症予防の取組は、熱中症が集中する7～8月はもとより、その前段階からも必要であるが、特に、熱中症の発生が急増する7月に着目し、同月を熱中症予防強化月間と定めた。

2012年熱中症搬送人員数:消防庁(数字は死者数[2012年])



熱中症による月別死亡者数



厚生労働省人口動態統計データより